

門川町教育研究所

I	研究主題	14-1
II	主題設定の理由	14-1
III	研究目標	14-1
IV	研究仮説	14-1
V	研究構想	14-2
VI	研究組織	14-2
VII	研究内容	14-3
1	キャリア教育の視点を踏まえた教科等での授業研究	14-3
	(1) 教科等でのキャリア教育実践上の課題	
	(2) 教科等での指導ポイント	
	(3) かどがわ5段階授業モデルの活用	
	(4) 評価の工夫	
	(5) キャリア教育の視点を踏まえた授業の実際	
	授業1 修学旅行のガイドブックをつくろう (中学3年国語)	
	授業2 分数のわり算 (小学5年算数)	
	授業3 わたしたちのくらしと日本国憲法 (小学6年社会)	
2	キャリア教育年間指導計画モデルの作成	14-8
	(1) 基本的な考え方	
	(2) 文脈学習を重視した年間指導計画	
3	キャリア教育実態調査	14-9
	(1) 児童生徒の実態調査	
	(2) 教職員の実態調査	
4	キャリア教育研修と情報発信	14-9
	(1) キャリア教育研修	
	(2) 情報発信	
VIII	成果と課題	14-10
	○ 参考文献	
	○ 研究同人	

I 研究主題

未来を切り拓くための確かな学力を身に付けた児童生徒の育成 ～キャリア教育の視点をふまえた、教科等における指導方法の工夫・改善を通して～

II 主題設定の理由

○ 地域の課題から

門川町では、平成26年度門川町の教育として、教育目標「一人ひとりが主役の町づくりを推進する教育の充実」を掲げている。この目標に迫るために、重点施策として「ふるさと門川に誇りと愛着をもち、未来を切り拓くたくましい子どもの育成」に取り組んでいる。この取組での最重点施策は、「確かな学力の向上を図る教育の充実」である。

また、この実践をより確かなものにするために、本年度から3か年間、基礎学力定着指導実践推進地域の指定を受け、小中学校が連携を図りながら、「児童生徒の基礎的・基本的な内容の確実な定着及び学習習慣の形成を図るための学習指導及び教育課程の工夫、家庭との連携による指導等の実践・研究」に取り組むことになった。

○ これまでの研究から

平成24年度より、喫緊の課題である「防災教育」と門川町の教育基本方針である「ふるさと門川に誇りと愛着を持つ子どもの育成」につながる「ふるさと教育」の2つの教育を一体化し、研究・実践に取り組んできた。この教育を、「かどがわ黒潮学習」と命名して、「命を守り、育てる教育」を実践する中で、「自ら考え、判断し、行動する児童生徒の育成」を目指す3か年の研究・実践を開始した。

昨年度は、「かどがわ黒潮学習」の研究に、門川町の教育重点施策である「未来を切り拓くたくましい子ども」の育成につながる「キャリア教育」の視点を加え、研究・実践の一層の充実・発展を図ることとした。研究では、「かどがわ黒潮学習」を要としながら、他の教育活動との関連を図るなど、門川町の特色を生かした「キャリア教育」になるように工夫した。この教育を「門川ゆめ創り学」と名付け、基本構想・全体計画を作成、総合的な学習の時間や特別活動（安全教育）の研究授業等により研究を深めることができた。しかし、この取組の過程で、キャリア教育を推進することで期待される「学習意欲の向上」や「学力の向上」の視点を明示した教科等におけるキャリア教育のさらなる研究・実践が欠かせない、また、年間を通した計画に基づくキャリア教育の指導を進めていく必要がある、という課題が示された。

○ 本年度の研究について

そこで本年度は、これまでのキャリア教育の研究を生かすとともに、門川町の教育方針や基礎学力定着指導実践推進地域指定の趣旨を踏まえて、研究・実践に取り組むことにした。特に、キャリア教育と学力向上の取組を一体として構想し、キャリア教育の視点を踏まえた教科等での指導の在り方の研究・実践を中心とする。具体的には、年3回の研究授業による検証、キャリア教育に関する基礎的な研究と年間指導計画モデルの作成、児童生徒の実態調査等の実施、研究成果等の情報発信を行い、教育研究所と学校、家庭が一体となった取組を行うことで、未来を切り拓くための確かな学力を身に付けた児童生徒の育成を目指していきたいと考え、本主題を設定した。

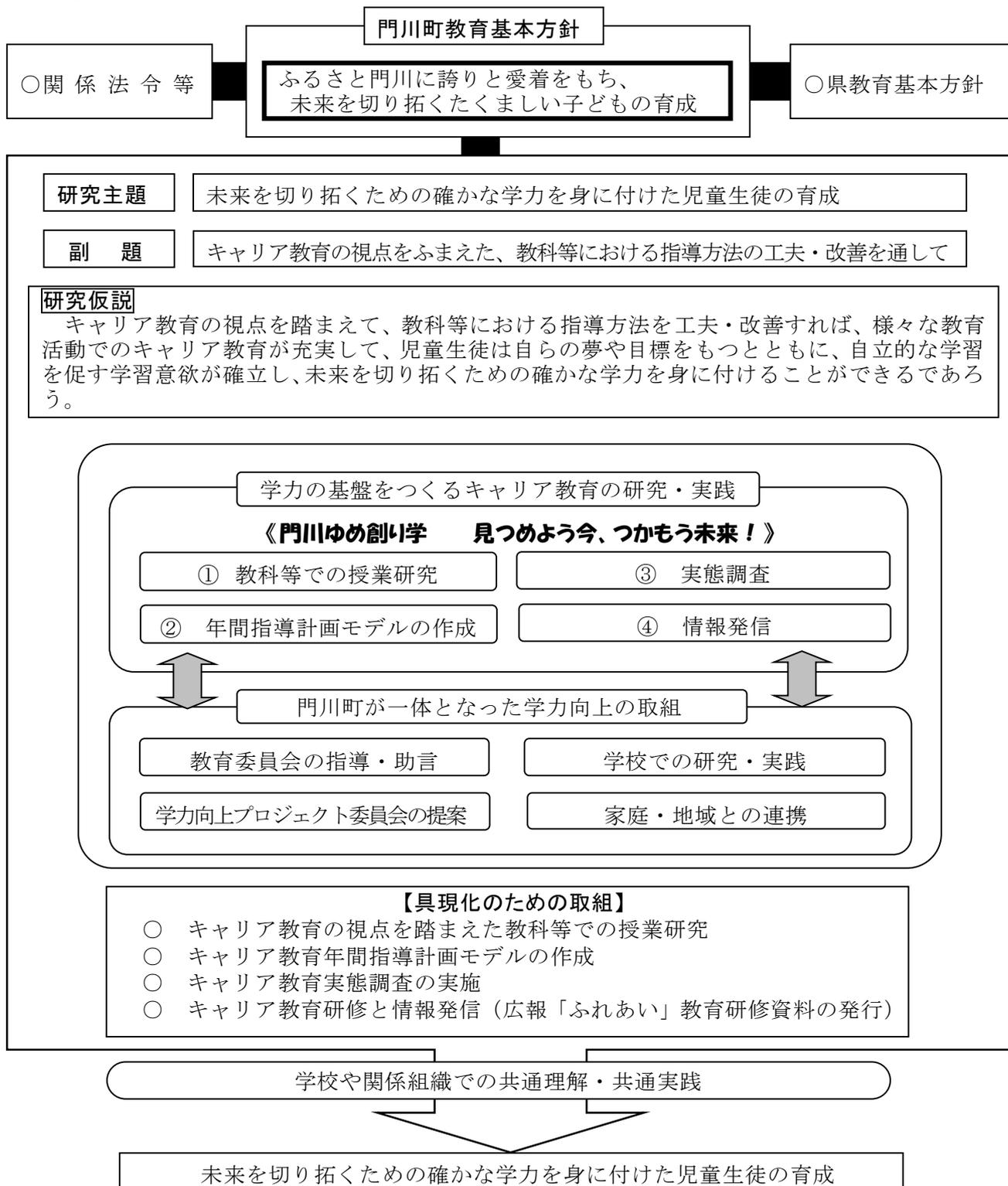
III 研究目標

キャリア教育の視点を踏まえて、教科等における指導方法を工夫・改善することにより、未来を切り拓くための確かな学力を身に付けた児童生徒を育成する。

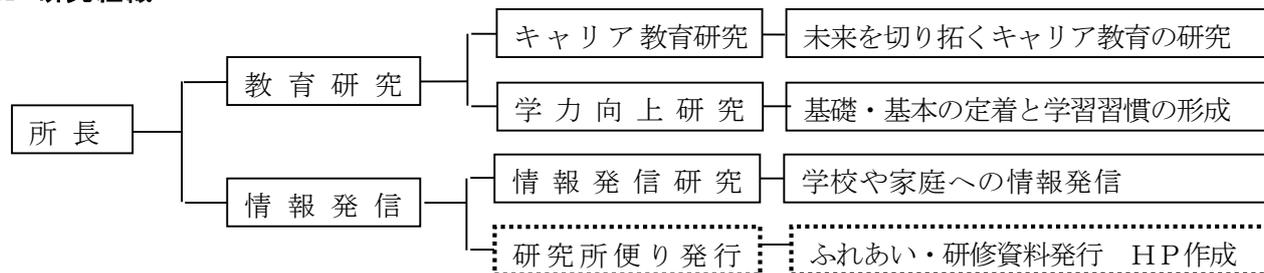
IV 研究仮説

キャリア教育の視点を踏まえて、教科等における指導方法を工夫・改善すれば、様々な教育活動でのキャリア教育が充実して、児童生徒は自らの夢や目標をもつとともに、自立的な学習を促す学習意欲が確立し、未来を切り拓くための確かな学力を身に付けることができるであろう。

V 研究構想



VI 研究組織



Ⅶ 研究内容

1 キャリア教育の視点を踏まえた教科等での授業研究

(1) 教科等でのキャリア教育実践上の課題

ア 教科における指導

キャリア教育という言葉の認知度は高まっているが、職業に直接関わる教育活動（職業調べ、職業体験、将来設計など）と理解されている傾向も見られ、進路指導や体験活動など一部の領域の課題という意識が根強い。子どもたちの将来の姿を念頭におき、今、大切にしたい教育活動の展開を考えるという視点をもって、すべての教育活動でキャリア教育の実践を進める必要があると考えた。

【文部科学省資料で指摘している課題】

- ① 理解や実践が十分に進んでいない。
- ② 一部の領域の課題（職業に直接関わるような教育）という認識がある。
- ③ 各教育課程の実践の頻度に差がある。特に教科における実践例が少ない。

資料1 キャリア教育の課題

イ キャリア教育の視点を踏まえた指導

キャリア教育の実践にあたっては、次の3つのキャリア教育の視点を、しっかり踏まえる必要がある。

- ① めざす姿のイメージをもつ。
- ② 教科の目標とキャリア教育のねらいを関連づける。
- ③ キャリア教育と学力のつながりを押さえる。

ウ 文脈学習の活用(P9参照)

児童生徒の内面の変容や能力の向上に結びつけるために、キャリア教育の取組に脈絡や関連性をもたせて、行事や体験的な活動、発表・討論の機会を生かし、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動などで、日常生活の中から課題を発見したり、意図的なつながりをもたせたりすることを大切にする必要がある。

(2) 教科等での指導ポイント

教科等でキャリア教育を実践するために必要なことは、学習の前後のつながりや児童生徒の意思決定や学び合い、学習したことを活用するといった活動である。

- ① 学習の見通しをもつ、振り返りをする。
- ② 自らの課題や活動を選択する。
- ③ 集団活動で考えを練りあう。
- ④ 学習したことと生活や社会とのつながりを考える。

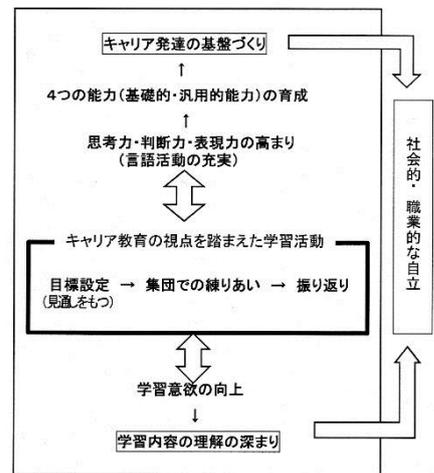
(3) かどがわ5段階授業モデルの活用

学習事項の確実な定着を目指して「かどがわ5段階授業モデル」を作成した。当初の基礎・基本の定着を図るためのモデルから、活用する力を育てるモデルを作成し、キャリア教育でも活用することとした。

- ① つかむ段階 — 分かっていること、分からないことを明確にして、課題をつかむ。
- ② 見通す段階 — 答えや解決方法を予想して、見通しをもつ。
- ③ 調べる段階 — 学びあう、練りあう活動を通して、考えを高める。
- ④ まとめる段階 — 自分の言葉で学習したことをまとめて、理解を確かにする。
- ⑤ 振り返る段階 — 自分や友達の様子を振り返り、家庭学習につなぐ。

(4) 評価の工夫

「キャリア教育の視点から、評価の視点や配慮事項を設定して評価することにより、各教科等の本来の目標をよりよく豊かに達成していくことが重要になる」（小学校キャリア教育の手引き）教科での目標達成は、数値で測ることができるが、キャリア教育で育てたい力はすぐに身に付くものではなく、児童生徒の発達段階に応じたキャリア形成とともに、徐々に身に付けていく力である。そのため、学習活動後の振り返りワークシート、教科日記、感想文、記録文などの制作物や行動観察などで、変容や成長を評価するようにした。



資料2 キャリア教育と学力の関係

(5) キャリア教育の視点を踏まえた授業の実際

授業1 修学旅行のガイドブックをつくろう(中学3年国語) ～課題対応能力の育成の視点～

ア 授業の概要

今年度、西門川中学校では、3年に一度の修学旅行があった。本授業は、3年国語「編集して伝えよう～日本文化のガイドブック」の学習を通して、修学旅行を題材としたガイドブックの作成を目指したものである。ガイドブックの完成をゴールとして、学習計画を立てて指導を行った。本時においては、よりより作品にするため、相手意識をもたせ、どのようにすればよいかを考えさせ、実際に作品を見直すという活動を行った。

イ キャリア教育の視点

キャリア教育を推進していく上で、生徒用キャリア教育アンケート結果から、本校の生徒は「課題対応能力」が低いことが分かった。そこで、見つかった課題に対して、自分たちの解決方法を見つけ、実際に見直すことができるようにする、ということを目指して授業を展開した。また、題材を修学旅行にすることで、ふるさと門川町を振り返る機会になると考えた。

ウ キャリア教育の視点を踏まえた指導の工夫

学習計画表を用いて、生徒たちに常にゴールイメージをもたせながら授業を行った。また、本時においては、作っておいたガイドブックのレイアウトを相手に沿ったものになるように見直すため、どう改善すればよいかというポイントで、KJ法を使って意見を出し合わせた。さらに、どのポイントに絞って見直すかをそれぞれのグループで決定させ、見直しに取り組ませた。

7 学習指導過程

	学習内容及び学習活動	指導上の留意点 (●…キャリア教育に付けたい能力、☆…誰の視点)
つかむ	1 「ガイドブック」の意味を再確認する。 2 本時の学習課題を考える。	● 「文化祭に向けて、修学旅行のガイドブックを作成しよう」というゴールイメージを持たせ、意識付けを行う。(課題対応能力) ○ 学習計画表に学習課題を書き込ませる。
見通す	3 どのような活動をすれば、工夫する点を見つけられるかについて意見を出し合う。 ・付箋に自分の意見を書く。 ・KJ法を使って話し合う。	○ これまでにやってきた学習を想起させ、活動を挙げさせる。 ③ 解決のための方法を明確にする。
調べる	4 課題について考える。 【個人】→【グループ】→【一斉】 ○小学生にも分かりやすいガイドブックにするにはどのような工夫が必要か。 ・難しい言葉はなるべく簡単な言葉に代える。 ・文字だけでなく、絵や写真も入れて見やすくする。 ・漢字にふりがなをうつ。 ・見出しを大きくする。	○ はじめは個人で考えさせ、その後グループで話し合う。その際、付箋紙を用意し、それぞれの意見が出しやすいようにあらかじめ書かせる。また、KJ法を使って意見をまとめさせる。 ☆ 話し合いに積極的に参加することができたか。 ○ グループで話し合った内容を発表させ、全員で確認する。

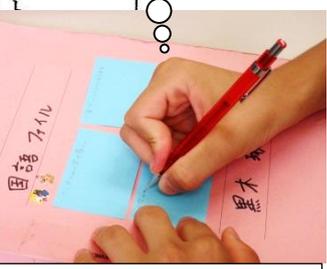
① 何が分かって、何が分かっていないのかを明確にし、ゴールイメージを持たせ、意識づけをする。



小学生に説明をしている自分を思い描いてごらん!

② 生徒の言葉で課題をつくる。

あなたが一番気をつけたいことはどんなこと?



付箋紙に書き出す

5 ガイドブックの内容の見直しをする。
 【個人】 → 【グループ】

キャリア教育の視点



見やすいレイアウトを考える



人材の活用

● 修学旅行前に考えさせておいたレイアウトを、4で確認したどのポイントを使って改善するのかが決めさせ、そのポイントに沿って改善させる。(課題対応能力)

④ 自分の改善の視点を決定させる。



ペアで意見交換

○ はじめは個人で考えさせ、個別指導が必要な生徒については机間指導をする。その後、修学旅行のグループで話し合わせ、グループで意見を出し合わせる。

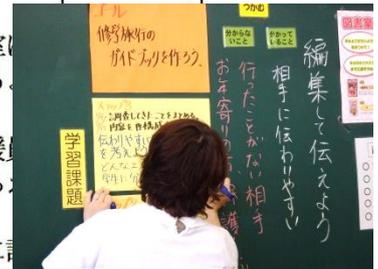
☆ 読み手に合わせて内容を見直し、内容を改善することができたか。

○ 適切に訂正できるよう、図書館の資料を用いて内容を見直しする。助言する。

○ 選書については、町の図書支援の方に選書のための助言をしてもらうことを伝える。

○ 訂正する箇所は、どういう風に訂正したのかが分かりやすいように朱子させる。

☆ 話し合いに積極的に参加することができたか。



作成の視点を集約する

6 課題に対する答えをまとめる。

○ 生徒たち自身に答えをまとめさせるようにする。

⑤ 生徒の言葉でまとめをさせる。

難しい言葉を簡単な言葉に直したり、絵や写真を入れたりするという工夫をする。

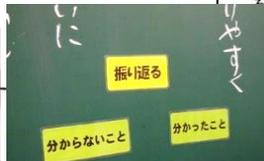
7 本時の学習について感想を書き、発表する。

● 「分かったこと」「分からないこと」をそれぞれ挙げさせ、今日の授業の振り返りができるようにし、次時への目標を持たせる。(課題対応能力)

感想記入用



自己評価をする



2つの視点で振り返

⑥ 本時を振り返って、学習シートに自己評価をする。

分らなかったことは、次の時間に先生と一緒に考えてみよう！また、家でもう一度やってみよう！

エ 成果と課題

(ア) 授業の成果

「課題対応能力」の育成について、生徒たちが自分で改善点を見つけ、実際のガイドブックの見直しに役立てることができ、課題解決の達成感や充実感を味わうことができた。また、5段階の授業を取り入れることで、生徒自身が見通しをもって授業に取り組むことができたり、思考する時間を十分にとったりすることができた。

(イ) 授業の課題

5段階の「振り返る」ところに十分に時間をかけられなかったので、時間配分など教材研究が十分でなかったと感じた。キャリア教育の視点を踏まえた教科の授業を展開するにあたり、各教科だけでなく学校や各学年全体のキャリア教育計画を踏まえなければ、一過性のものに終わってしまう。

4. 自己評価をしよう		今日の授業について、ふりかえって振り返りしよう	
1. 話し合いをするとき、自分で意見を述べることができた。	4	1. 本時の授業で、分かったこと	
2. 話し合いをするとき、自分から発言することができた。	3	2. 本時の授業で、分らないこと	
3. 改善するポイントを決め、内容をわかりやすく改善することができた。	2	3. 本時の授業で、感想をまとめたこと	
	1	4. 本時の授業で、振り返りができたこと	

資料3 学習シート

授業2 分数のわり算(小学校5年算数) ~自己理解・自己管理能力の育成の視点~

ア 授業の概要

五十鈴小学校では、毎年5年生が米づくりに取り組んでおり、本年度は実習田に児童手作りの看板を製作して立てることを計画している。本授業では、「五十鈴っ子米の実習田に、みんなでデザインした看板を立てよう」というゴールを設定して、看板の面積と使うペンキの量を分数で表すよさに気づかせながら学習を進めた。本時では、「分数÷整数」の計算方法を面積図や既習事項をもとにして話し合い、その公式を使いながら計算し、習熟を図る活動を行った

イ キャリア教育の視点

児童にキャリア教育に関するアンケートを行ったところ、「自己理解・自己管理能力」の項目で低い評価となっていた。そこで、「自己理解・自己管理能力」の育成を目指して、「自分の考えや根拠をもとに話し合い、学習を振り返る中で、自分の成長や変容をとらえることができる」というキャリア教育のねらいを設定して授業を展開した。

ウ キャリア教育の視点を踏まえた指導の工夫

「つかむ」段階では、算数日記を活用して、前時までの振り返りを行った。児童の言葉で振り返らせながら、前時と本時の学習のつながりを意識させるようにした。「調べる」段階では、ペアでの話し合いで、友達の説明から参考になる部分を付け加えたり、修正したりしながら、自分の考えを深めさせることで、思考力や表現力を高めていけるようにした。最後に、「振り返る」段階では、ノートに算数日記を記入する活動に取り組みさせた。振り返りの視点をもとに、具体的に取組の様子を文章で表現させ、それを全体で認め合うことで、自分や友達の成長や変容を感じさせるようにした。

段階	学習内容及び学習計画	指導上の留意点	準備物
つかむ (5分)	1 前時学習を確認する。 ○ 算数日記を汪田せる キャリア教育の視点 2 本時の学習問題を確かめる。 3 dLで4/5mぬれるペンキがあります。 このペンキ1 dLでは、何mぬれますか。 3 本時の学習課題を設定する。 分数÷整数の計算方法を見つけよう	● 算数日記から、前時に面積図を活用したことを想起させながら、本時の学習につながるポイントを確認させる。 (自己理解・自己管理能力) ○ 面積図を提示することで視覚的にも課題をとらえさせるようにする。また、既習事項との違いから、分かっていることや分かっていないことを明確にしなが、つかせるようにする。	算数日記 ① 前時の算数日記を振り返って、友達のよさや自分の成長について想起させる。 面積図 広さの問題だから、前使った面積図で考えよう。
見通す (7分)	4 学習問題の解き方を見通す。 ・答えの見通し ○ 4/5mより小さい ○ 1mより小さい ・方法の見通し ○ 面積図	○ 学習課題の掲示や、前時学習から面積図をもとに考えていくことを確認する。 ○ 面積図を使い1 d 1分の面積を予想させながら、面積図を縦に分けて考えるというイメージをもたせる。	② 解決のための方法を明確にする。



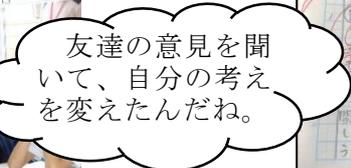
これまでの学習の掲示



算数日記の発表



前時の算数日記



友達の意見を聞いて、自分の考えを変えたんだね。

キャリア教育の視点

調べる (20分)	<p>5 学習問題について考える。</p> <p>【個人】→【ペア】→【一斉】</p> <ul style="list-style-type: none"> 面積図へのき込み 言葉での <p>③ 個→ペア→全体と思考を深めていく。</p> <p>【全体】</p>	<p>● ペアでの話し合いでは、自分と友達の説明を比較し、参考になる部分を付け加えさせたり、修正させたりしながら、自分の考えを深めさせるようにする。(配膳・配膳能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自力解決が難しい場合は、ヒントカードを活用させながら、考えの途中でも、ペア ☆ 隣の人と相談して、自分の意見をまとめよう。 ○ よりよい解決が、助言していく。(は・か・せ) 	 <p>個人思考</p>
まとめる (8分)	<p>7 学習課題をまとめる。</p> <p>分数を整数でわるには、分子はそのまま、分母にその整数をかける。</p> $\Delta/\square \div \bigcirc = \Delta/\square \times \bigcirc$ <p>8 練習問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A、B、C ・発展問題 <p>④ 児童の言葉でまとめをさせる。</p> <p>分数を整数で割るには、その後を考えてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3つの段階の練習問題を準備し、理解に応じて自分で問題を選択して取り組ませるようにする。 ○ 発展問題には、言葉で説明する問題も含めるなど、本時学習の習熟を図る。 ☆ キャリア教育の視点 	 <p>ペア学習で学び合い</p>
振り返る (5分)	<p>9 本時学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 算数日記を書く。 ・わかったこと、わからなかったこと ・友達の発表のよかったところ ・自分のがんばり ・自分の変容や成長 <p>⑤ 本時を振り返って、算数日記を書く。</p> <p>分かったことやわからなかったことを書こう。</p> <p>分からなかったことを家でもう一度やろう。</p>	<p>● 振り返りの視点をもとに具体的に記入させ、児童のがんばりや、変容を賞賛することで、客観的な自己理解や意欲の向上につなげる。(自己理解・自己管理能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 算数日記で理解が不十分などところや家庭学習につながる内容の記述を紹介することで、自立的な家庭学習を促すようにする。 	 <p>算数日記で振り返る</p>

ウ 成果と課題

(ア) 授業の成果

算数日記を活用して、キャリア教育の視点をもとに、継続的に振り返りを行わせることで、自分自身の変容や成長に気づき、それを自分なりの文章で表現する力が身についてきた。また、前向きに考え、主体的に学習しようとする意欲も算数日記の記述から見られるようになってきており、自己理解・自己管理能力の育成につながることができた。

今日は $3/5 \times 4$ の勉強をしました。ぼくは、はじめ等しい分数でまとめると思って分母を変えてしまいました。でも、あとから、前の3人のおかげでくわしくわかりました。そしてプリント問題で一問もまちがえずにできました。今日は、宅習でもやってみようと思いました。

資料 4 前時の算数日記の一部抜粋

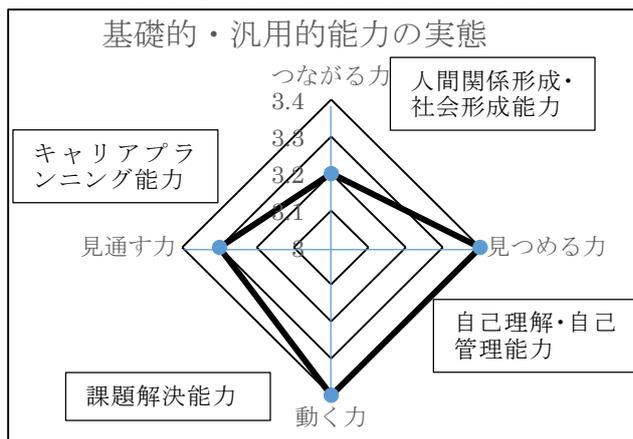
(イ) 授業の課題

総合的な学習（五十鈴っ子米再発見！）と、算数の本単元のつながりを、もう少し児童自身に分かるような形で示しながら学習を行うことができると、さらに見通しをもって意欲的に学習を進めることができたのではないかと感じた。また、自力解決で戸惑っていた児童もいたので、実態や理解力に応じた手立てを十分に考えておくことと、考えさせるポイントをはっきりさせる必要がある。

授業3 わたしたちくらしと日本国憲法(小学校6年社会) ～人間関係形成・社会形成能力の育成～

ア 授業の概要

事前の実態調査及び日常の授業の様子から、人間関係形成能力(相手の意見を聞き、自分の意見や気持ちを分かりやすく話すこと)の育成が必要であることが分かった。そこで、まず、児童にとって身近な新聞記事を通して、日本国憲法と自分たちの生活が結びついていることを実感させて、意欲的に学習に取り組ませることにした。また、単元を通して、難易度の高い学習なので、日本国憲法の3原則の考え方を反映した具体的な事例をもとに、ペアや全体での話し合いを通して、自分の考えを練り上げていく学習を取り入れることとした。



資料5 キャリア教育能力実態調

イ キャリア教育の視点を踏まえた指導の工夫

今回の学習では、国民主権の考え方を実現するためにすべきことを考えさせ、社会の一員としての自覚を深めるために、2段階の視点で問題を解決させる。その第2の視点である「選挙で代表者を選ぶためにどのような思いで投票すべきか」については、実際の投票の事例を扱うことで、国民主権の考え方を実行するための大切な思いにまで深めさせていく。その際、個人思考をさせた後、ペアでの協議を設定し、友達の見意見を参考にしながら、意見の追加、考えの変更を認めさせることで、意見の質の向上を図らせたい。また、これらの内容をペア及び全体で賞賛したり、発表したりすることで、キャリア教育の視点である「コミュニケーションを通してよりよい人間関係をつくる」力を身につけさせたい。(※ 本研究授業は平成27年1月に実施予定)

2 キャリア教育年間指導計画モデルの作成

(1) 基本的な考え方

今ある学習内容を生かしながら、作成が煩雑ではなく、活用しやすい内容にすることを重視した。そのために、「学校の特色ある教育活動と関連している」「やるべきことが月や学期ごとに一目で分かる」「学習のつながりが分かる」などの視点を重視して作成することにした。

第6学年 キャリア教育年間指導計画			
学校全体で目指す児童生徒像 自分に誇りをもって、未来を切り拓く子ども		児童生徒の現状や課題 自分に自信がなく、粘り強さに欠ける。	
学年で目指す児童生徒像 集団の中で役立つ喜びを持ち、自信をもって活動する。			
キャリア教育基本方針 防災教育を生かしたキャリア教育の推進			
キャリア教育重点目標 地域を知り、理解を深める中で、地域の防災に関する理解を深め、自らの役割を理解して行動することができる力を育てるとともに、自己理解、自己管理能力を育てる。			
月	キャリア教育の流れ	キャリア教育の視点と活動	関連する教科等での学習内容
4月	(特) 6年生になって	○キャリアプランニング能力 1年間の学習の流れを理解して、自分が目指す姿を構想する。	(理) 地球と生き物のくらし (道) 自分のよさを生かして
5月	(防) わたしたちの地域を知ろう	○課題対応能力 地域の課題を理解して、地震・津波時の適切な行動を考える。	(国) イースター島にはなぜ森林がないか (理) 動物の体のはたらき
6月	(道) 社会のためにつくりたい	◎自己理解・自己管理能力 集団での自分の役割を振り返り、将来の姿を見つめる。	(算) 比とその利用

資料6 キャリア教育年間指導計画モデルの一部

(2) 文脈学習を重視した年間指導計画

学びに文脈を作るために、行事や体験的な活動、発表・討論の機会を生かして、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動などで、日常生活の中から課題を発見したり、意図的なつながりを考えたりすることを大切にすることにした。

ア 文脈学習のポイント

- 学習目的とのつながり ～ 「なぜ」学ぶのかを伝える。
- 過去の学習や教科間のつながり ～ 学習間のつながりをつくる。
- 日常生活とのつながり ～ 日常の具体的な場面と関連づける。
- 将来の役割とのつながり ～ 児童生徒の将来の役割につなぐ。

イ 学びの文脈を作成する例

- A校 最重要課題である防災を柱として、課題対応能力を育成する。
- B校 地域の特色「地域人材との交流」を柱として、コミュニケーション能力を育成する。
- C校 職業体験学習を柱として、キャリアプランニング能力を育成する。
- D校 ふるさと学習を柱として、自己理解・自己管理能力を育成する。

ウ 今後の取組計画

教育研究所が本年度中にモデル案を作成して各学校に示し、各学校では、昨年度作成した全体計画をもとに、次年度いっぱいをかけてキャリア教育年間指導計画の作成を行う計画を立てている。

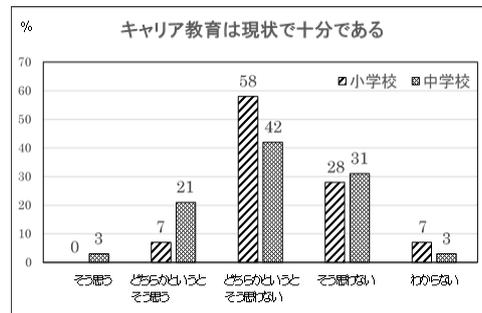
3 キャリア教育実態調査

(1) 児童生徒の実態調査

研究授業のはじめに、昨年度作成したキャリア教育基礎的・汎用的能力調査表を使って、児童生徒の課題を把握して指導計画をつくり、授業に取り組むようにした。

(2) 教職員の实態調査

教職員を対象として、キャリア教育に関する10項目のアンケートを実施した。その結果、児童生徒にとってキャリア教育は必要であるが、現状は十分ではないという結果が明らかになった。また、キャリア教育に対する意識は、中学校より小学校の方がやや低いという結果が明らかになり、小学校でのキャリア教育の充実を図る必要があることが分かった。さらに、キャリア教育の研修が必要であること、キャリア教育の評価が十分でないことも明らかになった。このような実態調査の結果を踏まえて、各学校において研究員と担当者が協力してキャリア教育研修に取り組んだり、教育研修資料を活用してキャリア教育に関する情報を提供したりして啓発を図り、理解を深める取組を行った。



資料7 キャリア教育実態調査

4 キャリア教育研修と情報発信

(1) キャリア教育研修

教育研究所の研究・実践を生かして「キャリア教育研修資料」を作成し、夏季休業や冬季休業中に各学校でキャリア教育研修を実施している。研究員が学校の担当者と協力して研修を主導し、各学校のキャリア教育に関する課題の解決に取り組んでいる。

(2) 情報発信

情報発信では、保護者や地域にむけて「広報 ふれあい」を発行して、家庭教育に役立つ教育情報を提供している。また、教職員に対しては、教育研修資料を作成・配付している。さらに、門川町のホームページの教育研究所コーナーで、研究・実践の情報を広く発信している。

Ⅷ 成果と課題

1 研究の成果

- 各学校の担当者を交えて、キャリア教育の視点を踏まえた授業研究を3回実施することにより、教科でのキャリア教育の在り方として、「めあて設定」「内容選択」「指導方法の工夫」が重要であること、学びに文脈を持たせることが必要であること、キャリア教育で学習意欲を高めることが学力向上につながるなど、などを明らかにすることができた。
- キャリア教育の視点を踏まえた指導を通して、課題に粘り強く取り組もうとする児童生徒の姿や友達のよさ・自分の成長に気づき、自ら伸びようとする意欲をもった児童生徒の姿を見ることができた。
- キャリア教育年間指導計画モデルを作成して各学校に提供し、次年度年間指導計画を作成するための素地をつくることができた。
- 研究・実践の成果を生かしてキャリア教育研修資料を作成し、全学校で研修に取り組んだ結果、キャリア教育の必要性や年間指導計画の作成に対する前向きな理解が深まるなど、キャリア教育に対する教職員の意識を高めることができた。

2 今後の課題

- キャリア教育の視点を踏まえた教科の授業を展開するに当たり、各教科だけでなく学校や各学年全体のキャリア教育指導計画を踏まえるために、各学校で学校の特色を生かし、児童生徒の実態に応じた年間指導計画を作成する必要がある。
- キャリア教育の視点から、学力向上に取り組むための実践に力を入れる必要がある。
- キャリア教育の4能力に関わる有効な評価の在り方や具体的な評価方法などについて研究を深める必要がある。
- 各学校のキャリア教育を充実するために、実態調査や研修資料の提供などで教育研究所が先導的な役割を果たす必要がある。

○ 参考文献

キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書	文部科学省
キャリア教育をデザインする	文部科学省
キャリア教育の更なる充実のために	文部科学省
宮崎県キャリア教育ガイドライン	宮崎県教育委員会
京都市生き方教育	京都市総合教育センター

○ 研究同人

職名	氏名	所属	職名	氏名	所属
所長	新原とも子	教育長	研究員	鈴木邦典	草川小学校
事務局	岩切康郎	主任指導主事	研究員	壹岐俊郎	西門川小学校
研究指導員	山本逸馬	教育総務課	研究員	中川裕也	五十鈴小学校
研究主任	小島琢哉	門川小学校	研究員	宇ノ木佳子	門川中学校
研究副主任	藤本なつみ	西門川中学校			